



梅雨入り後の月曜日は真夏日で、暑い一日でした。園庭での体育や外遊びも20分程度に限定しています。小さい子どもは汗をかくことを厭わず、遊び続けてしまいます。ご家庭での外遊びの際も、水分補給や汗をしっかりと拭くことを心掛けて、暑さと上手に付き合っていくようにしてください。

さて、今回は奥田健治先生の『子育てのほんとうの原理原則』をテーマに皆さまに考えてもらおうと書いてみます。この本の帯に「もうムリ、助けて、お手上げ」をプリンシプルで解決、と書いてあります。

家庭に、子育てに関する原理・原則＝プリンシプルをもとう、いつどんな時も、都合や気分にも、世間の風潮にも惑わされず、一貫した態度で子どもに接すること。親に求められるのは、「これだけは我が家の決め事にしよう」というルールを決め、守る態度です。

例えばお菓子は1個だけ、YouTubeは親と一緒に5分だけと決めたら、徹底してそれを守り抜くのです。たかが1個が、子育てがうまくいくか行かないか、の大きな分かれ道だと奥田先生は書いています。

もう1個欲しい、となれば「キーーーーー！」と金切り声を発する、泣き続ける。でも「キーーーーー！」で要求が叶うと、将来、ちょっと気に入らないことがあるとこの声を発し、要求が通らないとキレる子になってしまいます。そういう問題をはらんでいるのです。キレて親を脅しているのです。

「キーーーーー！」はお母さんの「弱み」。「弱み」を持っていると、子育ては不利になってしまいます。「やるならやってもいいけど、必ず損をさせること」という親の新しい姿勢が大切です。

この、例にあげた子どもは「キーーーーー！」と言えば親が言うことを聞くということを学んでいます。この手が通用するのを経験すれば、何度でも同じことを繰り返し、要求はどんどんエスカレートするものです。子どもが社会に出て困らないように「それはいけないこと」と小さいうちから教えておかなければならないことはたくさんあります。

子育ては手がかかることです。今の日本はお母さんも働かなければいけないようになっていきますから、手がかかるのに、手がかけられない状況であることは私達にも十分わかっています。でも、手を掛けずに、

放っておいて社会に適應できるいい子に育つなんてことはありません。手がかからない子なんていないのです。

「家庭のルールづくり」をすると、お母さんの子育ては昨日よりも倍以上たいへんになります。YouTubeと一緒に5分だけ見ることも、だめなものはだめ、を徹底することも、根気がいるし、面倒なことでしょう。

でも子どもがルールを守れたら、ちょっとではなく、めっちゃうちゃに褒めてあげてください。盛大に喜んであげないといけない。子どもはルールを守るという大変なことをやってのけたのです。それが「とても素晴らしいこと」というのを、子どもに伝えることが必要なのです。

幼稚園は集団生活で、わがままは通用しないところ、と子どもたちもわかっていて、6月にもなれば集団生活にも慣れ、振舞い方もわかってきます。ところが家庭に戻ると、王子様とお姫様ばかりのようですね！家庭でわがまを言っているのは片目くらいづりますが、家庭と同じように我を通そうとする子が時々います。泣き喚いて要求を通そうとします。でも、主導権は当たり前ですが、先生にあります。幼稚園にもルールがあり、決まりは子どもではなく先生が決め、子どもは守らなければいけないからです。特別はありません。一貫しないと、命にかかわることにもなりますし、子ども達全員に迷惑をかけてしまいます。幼稚園はそういう覚悟を持っていることも、知っておいて欲しいことです。

園長 志田裕美子

<年長組今月の目標>

健康・・・逆上がりに繋がる活動を経験し、自ら鉄棒に触れる機会を持つ
人間関係・・・友だちの思いを受け入れて、同じ目的を持って遊びを進める
環境・・・野菜の栽培を通して、様々な植物の成長を知り、収穫の喜びを知る
造形・・・絵手紙、描画
言葉・・・発表の際は「です」「ます」まできちんと丁寧に言える
音楽・・・「トレロカモミロ」「南の島のハメハメハ大王」「手のひらを太陽に」

<担任からのメッセージ>

先日はファミリーデーにお越しいただき、ありがとうございました。
前日の朝、すでに登園していた子たちと母の日参観の時にも使用した順番を書いた表とにらめっこしながら、（みんな1番やりたいよね…とふと思い）「ちょっと変えようか？」と呟くと、「3番がいい」「4番がいい…」と……。
「1番がやりたい」と返ってくると思ってたので、予想外すぎて
「え—————！？」
っと絶叫してしまいました。
今年はみんな控えめで、みんなにどうぞって譲れるところはピカイチですが、もう少し「やるやる～」とガツガツしてくれてもいいのに～と欲張ってしまいます。
このままではみんなが最後でいいと言いかねないと焦った私は、
「去年のほし組さんは1番がいいって取り合ってたのに…そっかあ…難しいかあ……」と呟き、「先生が言うならできる～」「やってみる！！」ととりあえず前向きな発言を引き出し、そのままの順番でいこうと決めました。

母の日参観では、気合い入れてくれる人～と言った時に手を挙げる子が少なく、ギリギリの状態で乗り越えましたが、今回はたくさんの子がやってみようと勇気を出して手を挙げてくれたので、その気持ちが嬉しくてやってくれる子みんなにお願いしちゃいました。友だちがいるならやってみようかな…とってくれた子もいたと思います。少しずつ積極的に自信を持って取り組めるようになっていくなあと喜びを噛み締めています。

みなさんモジモジしてませんか～と最後にお話ししてしまいましたが、お家の方も気合い入れの時は、他にやりたい人がいたら……と手を挙げるのを遠慮されていたんですね。無茶振りすみません。ゲーム中はとてもたくさんの応援で盛り上げてくださり、心より感謝しております。お子様と笑い合う笑顔が見られて、幸せな時間をいただきました。ありがとうございました。

5月の後半から、アゲハ蝶の幼虫を育てています。すでに、1番目のりぼんちゃんと4番目のうさぎちゃんが無事に羽化して飛び立ちました。

2、3番目のハートちゃんとおもちちゃんは寄生虫に食べられてしまい、天国へ旅立ちました。旅立ちの話をした時は、悲しく切ない表情でシーンとなってしまいましたが、無事に生まれることが当たり前ではないことも知れる良い経験となりました。

うさぎちゃんが生まれたのは8時ちょっと前でした。みんなが来た時に生まれるかも～とウキウキしていたら、目を離した10分程の間に生まれていて、瞬間を見るチャンスを逃してしまいました。生まれる瞬間は命懸けだと思うので、賑やかな時間が始まる前にと察知したのでしょね。

登園した子に、生まれたばかりで羽を乾かしているからなるべく静かにしていようと伝えたと、忍者のようにひっそり、こっそりと過ごしてくれて「生まれたんだよ、シーッ」と次から次に来る子に嬉しそうに伝えていました。

お別れした後に、園庭やクラスの窓にアゲハ蝶が飛んでいるのを見つけると、「りぼんちゃんが遊びに来てくれたんだね」「うさぎちゃんかな～」と、喜び合う姿が可愛いすぎて次の子も無事に生まれてほしいなと願っています。

ちなみに6/18現在、メダルちゃんと赤ちゃんマンの2匹を育てています。

赤ちゃんマンは蛹になったら名前をお兄ちゃんマンに変えようと楽しそうに話していたので、どうなるのかとても楽しみです。

※お持ち帰り頂いた朝顔ですが、「摘心」をすると、よりつるが伸び葉も増えやすくなるそうです。詳しくはGoogle先生を頼ってみてください。

山口 朱美

